

# 社会科学習指導案

「福祉の充実」  
(中学校 第3学年)  
神奈川県立総合教育センター



【『「現在求められている教育」を関連させた学習指導』平成22年3月】

研究成果物冊子『「現在求められている教育」を関連させた学習指導』の6ページに記載されている「指導計画作成モデル」に基づいて、「キャリア教育」「シチズンシップ教育」「読解力向上に関する教育」を関連させた単元の指導計画を作成し、中学校第3学年社会科で実施した学習指導案です。

1 学年 第 3 学年

2 教科名 社会

### 3 教科目標

広い視野に立って、社会に対する関心を高め、諸資料に基づいて多面的・多角的に考察し、我が国の国土と歴史に対する理解と愛情を深め、公民としての基礎的教養を培い、国際社会に生きる平和で民主的な国家・社会の形成者として必要な公民的資質の基礎を養う。

4 単元名 「福祉の充実」

### 5 単元目標

憲法に記された「生存権」を具体的に保障するために、国や地方公共団体が国民のために行っている社会保障の仕組みや内容について理解するとともに、身近な施設や地方公共団体の活動などを調べる中で、福祉政策を実現するための財政の役割や、少子高齢社会の中での課題について、具体的に指摘することができる。

### 6 児童・生徒の現状から判断したこの単元で「主に付けたい力」

生徒たちの多くは授業にまじめに取り組むが、学習態度は受け身である。与えられた知識は覚えようとするが、資料から必要な情報を取り出し、その資料を基に自分自身の考えを構築し、表現する力が十分に付いていない。そこで、資料から情報を取り出す力や、その資料を基に思考したことを表現する力の育成を目指す。

自分たちが暮らす地域の中にも様々な形で、人々が暮らしやすいようにする工夫がなされていることに気付いていない生徒が多い。そのような点から本単元では、自分が町長になった場合を想定し、社会資本を整備するという課題に取り組むことで、地域に住む様々な人々の立場を考慮し、思考する力・判断する力を育成する

### 7 関連させる教育

#### キャリア教育

町に住む人々や町で働く人々など、様々な立場から考えさせることにより、思考する力・判断する力の育成を目指す。

#### シチズンシップ教育

生徒自身が地域社会に参画するという意識を育てることができる課題を提示し、思考する力・判断する力の育成を目指す。

#### 読解力向上に関する教育

町の総合長期プラン、教科書、資料集等から必要な情報を取り出し、その情報を基に与えられた課題について考え、班ごとにまとめたものを発表する学習活動を通して、情報を取り出す力と表現する力の育成を目指す。

### 8 単元の指導計画

(1) 単元の時間数 6 時間扱い

（ 2 ）単元の評価規準表

社会的事象への 関心・意欲・態度	社会的な思考・判断	資料活用の技能・表現	社会的事象についての 知識・理解
身近な福祉施設について、様々な資料や自分の経験から、すべての人に優しく使いやすく工夫されている部分を意欲的に調べている。「暮らしやすい町」に興味を持ち、自分なりの考えを持ち、意欲的に取り組んでいる。自分たちで考えた「暮らしやすい町」について、班員と協力して分かりやすく発表している。	少子高齢社会を迎え、福祉の充実と税負担とのバランスはどのようにあるべきか、多面的・多角的に考察している。「暮らしやすい町」を実現するにあたり、どのような社会資本から整備する必要があるか、自分なりの根拠を基に、優先順位を考察している。	少子高齢社会の進展が社会保障費を圧迫し、勤労者層の税負担が増加することを資料より具体的に指摘している。与えられた資料から、自分なりの「暮らしやすい町」に必要な社会資本について、根拠を示して表現している。	我が国の社会保障の仕組みと内容について知るとともに、社会保険が社会保障費の大部分を占めることを理解している。これからの社会資本の在り方について、高齢者、障害者にも配慮した施設などを、財政面を考慮しながら作る必要があることを理解している。

（ 3 ）単元の指導計画 太字で下線が引いてあるものは本単元で「主に付けたい力」

時間	学習内容	「付けたい力」 (教師の指導内容)	生徒の学習活動	指導上の留意点	評価規準			
					関	思	技	知
1	身近な福祉施設を調べよう	<b>情報を取り出す力</b> (資料から、福祉施設の工夫されている点を見付け出させる。) 他者を理解する力 (地域には、いろいろな立場の人が住んでいることに気付かせる。)	<ul style="list-style-type: none"> <li>資料や自らの経験から、福祉施設の工夫されている点を見付け出す。</li> <li>地域に住んでいる人のことを考え、どのような福祉施設ならば利用しやすいかを考える。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>町の福祉施設の見取図を資料として提示し、福祉施設におけるバリアフリーの工夫について指摘させる。</li> </ul>				
2	社会保障制度の概要について知ろう	<b>情報を活用する力</b> (身の回りの社会保障制度について、資料や過去の経験を基に発表させる。)	<ul style="list-style-type: none"> <li>保険証を使って通院したことや、予防接種を受診した経験など、社会保障制度を利用した経験について発表する。</li> <li>憲法で保障されている「生存権」を具現化するための社会保障制度について、その仕組みと内容の概要を理解する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>なぜ、通院するときには保険証を携帯するのかについて、考えさせる。</li> <li>基本的人権で学習した内容が、実際の社会保障制度の中でどのように実現されているのか、具体例を挙げる。</li> </ul>				

3	社会保障制度の課題について知ろう	<b>情報を取り出す力</b> （社会保障費の移り変わりの資料から少子高齢社会の課題について指摘させる。） <b>思考する力・判断する力</b> （将来の日本の社会保障の在り方について考えさせる。）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・少子高齢化の進展に伴い、社会保障費も増大し、税負担が増大することを資料から読み取る。</li> <li>・これからの日本の社会保障の在り方について、税負担と福祉とのバランスを踏まえて、自分なりの考えを発表する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・収入と税負担のバランスについて資料から読み取らせるとともに、公平な税制の在り方について考えさせる。</li> <li>・低福祉低負担のアメリカや高福祉高負担の北欧の国々を具体例を示す。</li> </ul>				
4 5	社会資本の整備「暮らしやすい町」を提案しよう	課題を発見する力 （町に住む人々や町で働く人々の立場から町を見直し、課題を見付けさせる。） <b>思考する力・判断する力</b> （町に必要な社会資本について考えさせる。） コミュニケーションする力 （自分の考えを持つと同時に、相手の意見を聞き、自分の考えを修正し、より建設的な意見を出させる。）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「自分が町長ならば、どのように暮らしやすい町づくりを行うか」という課題に対し、町に住む人々や町で働く人々にとって、暮らしやすい町であるためには、どこが課題であるか見付ける。</li> <li>・町の中で整備する必要がある社会資本について、必要度や財政とのバランスから順位を付け、その理由を考える。</li> <li>・自分の考えの根拠を相手に伝えるとき、相手の意見を聞き、自分の考えとすり合わせるができるように話し合う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒が課題に取り組みやすいように、自分たちが住んでいる町を題材にする。</li> <li>・町の地図や町が作成している総合長期プランを資料として提示する。</li> <li>・町に必要な施設の優先順位について、根拠を示しながら考えることを指導する。</li> <li>・第2学年で実施した職場体験活動での経験を思い出させ、町で働く人々の立場からも考えさせる。</li> <li>・立場によって優先するものが違うことを理解させる。</li> </ul>				
6	「暮らしやすい町」の発表をしよう	<b>表現する力</b> （調べてまとめた内容について、班ごとに発表させる。） 伝え合う力 （他の班の良い点や改善点を指摘させる。）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・前時までにまとめた内容を、班ごとに分担・協力しながら発表する。</li> <li>・他の班の発表を聞き、良い点や改善すべき点などをアドバイスする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・発表の分担がスムーズにできるように、発表原稿を作らせる。</li> <li>・付箋紙を使い、一人ひとりに発表の感想を書かせ、相互評価させる。</li> </ul>				

丸数字は単元の評価規準表に対応、太枠内の4時間目が本時の学習

## 9 本時の学習（単元の 4 時間目）

### （1）本時の目標

「自分が町長ならば、どのように暮らしやすい町づくりを行うか」という課題に取り組みむことを通して、町に必要な社会資本についての理解を深め、主体的に社会参画する態度を育てる。

### （2）準備物

町の地図、町が作成している総合長期プラン、ワークシート

### （3）本時の展開

過程	付けたい力	学習活動の流れ	指導上の留意点	評価規準 [評価方法]
導入	課題を発見する力 (町に住む人々や町で働く人々の立場から町を見直し、課題を見付けさせる。)	「自分が町長ならば、どのように暮らしやすい町づくりを行うか」という課題に対し、町に住む人々や町で働く人々にとって、暮らしやすい町であるためには、どこが課題であるかを見付ける。 <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin-top: 5px;">                     ・役場や福祉センターの位置                      ・歩道の整備が不十分                      ・点字ブロックがない                 </div>	生徒が課題に取り組みやすいように、自分たちが住んでいる町を題材にする。 町の地図や町が作成している総合長期プランを資料として提示する。	【関心・意欲・態度】 「暮らしやすい町」に興味を持ち、自分なりの考えを持ち、意欲的に取り組んでいる。 [観察]
展開	<u>思考する力・判断する力</u> (町に必要な社会資本について考えさせる。)	町の中で整備する必要がある社会資本について、必要度や財政とのバランスから、順位を付け、その理由を考える。 <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin-top: 5px;">                     ・教育、福祉、環境、産業、その他などの側面から優先順位を考える                      ・財政負担のバランスを考慮する                 </div>	町に必要な施設の優先順位について、根拠を示しながら考えることを指導する。 第 2 学年で実施した職場体験活動での経験を思い出させ、町で働く人々の立場からも考えさせる。	【思考・判断】 「暮らしやすい町」を実現するにあたり、どのような社会資本から整備する必要があるか、自分なりの根拠を基に、優先順位を考察している。 [ワークシート、観察]
まとめ				

**（４）本時の学習評価**

**【社会的事象への関心・意欲・態度】**

学習活動における具体の評価規準	「暮らしやすい町」に興味を持ち、自分なりの考えを持ち、意欲的に取り組んでいる。
「十分満足できる」状況（A）と判断した具体的状況例	「暮らしやすい町」について、町に住む人々の立場からだけではなく、町で働く人々の立場からも考えを持ち、与えられた課題に対して意欲的に取り組んでいる。
「努力を要する」状況（C）と評価した生徒への手だて	「暮らしやすい町」の課題の意味について理解させ、自分なりの考えを持てるようにアドバイスする。

**【社会的な思考・判断】**

学習活動における具体の評価規準	「暮らしやすい町」を実現するにあたり、どのような社会資本から整備する必要があるか、自分なりの根拠を基に、優先順位を考察している。
「十分満足できる」状況（A）と判断した具体的状況例	町に住む人々の立場からだけではなく、第2学年で実施した職場体験活動の時に経験したことなどを参考にし、町で働く人々の立場からも、どのような社会資本から整備する必要があるかについて、考察している。また、優先順位についての根拠を具体的に挙げている。
「努力を要する」状況（C）と評価した生徒への手だて	課題の意味について理解させ、自分の家族のことや第2学年で実施した職場体験活動の時の経験を思い出させ、優先順位を考察できるようにアドバイスする。

## 「暮らしやすい町」

3 年 組 氏名

順位	項目	その内容を選んだ理由
1		
2		
3		
4		
5		